

私たちの町の文化財

池のほとりの不思議

■第12話 そして謎は謎を呼ぶ

池辺寺には今でも多くの謎があります。「絵巻に書かれた創建年代と百塚の時代が100年ずれているのはなぜか」とか、「誰が創建・設計したのか」「そもそも百塚はいったい何なのか」等々…。そんな中、やはり一番の謎は「池の辺りの寺」のはずなのに、根本中堂・百塚からは味生池が見えなかった!?!ということ。そうすると創建地はもっと池に近いところだったのかなど、新たな疑問が浮かんできます。

謎に取り付かれたそこの皆さん。ぜひ池辺寺の現地に足を運んで共に考えて見てください。整備が完了した池辺寺跡・百塚地区ではこれまでの調査成果をまとめてご覧いただける簡易的な「ガイダンス施設」があります。まるで本物そっくりの金子塔(池辺寺の由来が刻まれた室町時代建立の石製笠塔婆)や、池辺寺の年表に関連地図、発掘調査の風景などが確認できます。また、花岡山やその奥に見晴るかす阿蘇外輪山を見渡すもよし、各遺構の解説パネルを読み進めていくもよし。ウォーキングがてら探索するもよし、です。

今年一年にわたって連載してきた「池のほとりの不思議」も、今月が最終回です。今後も池辺寺跡の発掘調査は続きます。また新たな事実が判明することに乞うご期待。



来年のみにくま一月号からは近年発掘調査が増加している熊本駅周辺の「続・二本木発掘物語」を開始します。お楽しみに。

◆池辺寺の概要を紹介するガイダンス施設

(熊本市文化振興課 師富 国博)